

そして…



恥を知れ  
差別者

差別者

許さないぞ

何とか  
言ってみる

○二部の人権団体は、  
糾弾による啓発は、  
正当な人権教育である  
と主張しています。  
その糾弾会は二度で留まる  
ことを知りません。

○また、人権擁護委員会への参  
加に、大いなる意欲をみせて  
います。

逃げられる  
と思うな

差別者



●人権委員会は五名で構成され、その下に事務局、そして全国に二万名の人権擁護委員を配置し、人権侵害や差別に対する啓蒙教育、調査を行なう組織として活動します。

●しかし、人権侵害や差別の定義はなく、委員会自体も権限に限界がない(三権と独立した機関のため抑止力になるものがない)最強の権力を持つことになるため、国民の人権を蹂躪し「法の下の平等」を侵害するものになります。

●この法案が国会で可決されると、国民一人一人の言動、さらに心の中まで介入され、ありとあらゆる自由が奪われることになるでしょう。

●数年前にこの法案が審議された時(マスコミが反対の大キャンペーンを張っていた「メディア規制法」は、この法案の一部です)と違い、今回はマスコミへの取材活動の規制を凍結させている為か、この法案の本当の危険性も今ひとつそりと国会で可決されようとしていることも、マスコミは黙ったまま見過ごしています。

●このまま大人しく黙って可決されるのを見過ごしては、日本は民主国家から一部の者の独裁国家へと変わってしまいます。

●インターネットでこの事を知った一部の国民と、国民主権・民主国家の日本を守ろうとする良識ある議員の方々が、今現在猛反発し、瀬戸際の攻防戦をくり返しています。

●国民の声は我々が思っている以上に、政府へ政党への影響があります。(声を上げているからこそ瀬戸際で止めているのです。しかしまだ推進派は諦めていません)

●自由を永遠に失わないためにも、どうぞ反対の声をあげて下さい。そして一人でも多くの身近な人に、この法案の危険性を話して下さい。

●民主主義を守る為、我々の声が、今一番必要とされています。